

2022年（令和四年） 1月7日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
F A X (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

12/16～12/22のNYMEX・WTI先物市場は、68.23～72.76ドルの範囲で推移した。

23日は、米国石油在庫週報で、原油在庫が予想以上に減少したことから、続伸した。株式市場の上昇も上昇要因となった。2月限の終値は前日比1.03ドル高の73.79ドルだった。

24～26日は、クリスマス休暇につき休場。連休明け27日は、新型コロナウイルス「オミクロン型」への過度な警戒感が後退、大きな影響はないとして、4営業日続伸、2月限の終値は前営業日比1.78ドル高の75.57ドル。28日は、引き続き、新型コロナウイルスの変異型「オミクロン型」の経済回復への悪影響は大きくないとして、5営業日続伸した。加えて、12月に入り、リビア・ナイジェリアが原油輸出について不可抗力条項を発動するなど、一部産油国の増産能力への疑問も、上昇要因となった。2月限の終値は前日比0.41ドル高の75.98ドル。29日は、米エネルギー情報局(EIA)発表の週間の在庫統計で原油在庫が5週連続で減少したのを受けて、6営業日続伸した。2月限の終値は前日比0.58ドル高の76.56ドルと約1か月ぶりの高値水準となった。ユーロ高・ドル安の進行も値上がり要因となった。30日は、7営業日続伸し、2月限の終値は前日比0.43ドル高の76.99ドル。前日の米国在庫統計の減少を受け、引き続き、需要の伸びを期待した買いが優勢であった。31日は、オミクロン株の感染拡大への警戒感を背景に、利益確定売りや持ち高調整の売りで、8営業日ぶりに反落した。2月限の終値は前日比1.78ドル安の75.21ドル。1月4日のOPECプラスの閣僚会議では、2月も40万b/dの減産緩和が維持されるとの見方が強い。

年明け3日は、反発し、2月限の終値は前日比0.87ドル高の76.08ドル。OPECプラスの閣僚会議を前に、様子見ムードであったが、需要拡大への期待感に加えて、リビアでパイプ

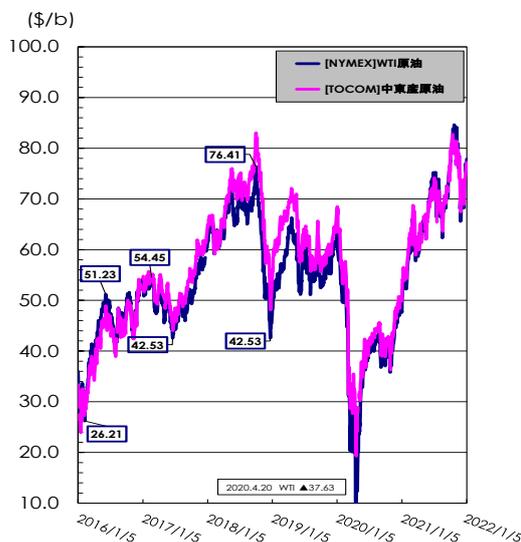
ラインのメンテナンスのため、1週間程度20万b/d減産されるとの報道があり、買われた。4日は、続伸し、2月限の終値は前日比0.91ドル高の76.99ドル。OPECプラスの閣僚会議は、予想通り、2月も40万b/dの減産緩和方針が確認され、供給過剰の懸念は後退した。5日は、2月限の終値は前日比0.86ドル高の77.85ドル。米エネルギー情報局(EIA)発表の週間の在庫統計で原油在庫が、市場予想を下回ったものの6週連続で減少したのを受けて、3営業日続伸した。ユーロ高・ドル安の進行も値上がり要因となった。

アジアの指標原油である中東産パイ原油/東京市場(2月渡し)は、12月16日～12月22日の間、70.20～73.40ドルの範囲で推移した。12月23日74.20ドル、24日75.20ドル、27日74.30ドル、28日77.00ドル、1月4日76.90ドル、5日78.30ドルで推移した。為替は、12月16日～12月22日の間、113.62～114.21円の範囲で推移した。12月23日114.23円、24日114.50円、27日114.42円、28日114.95円、29日114.89円、30日115.02円、1月4日115.44円、5日116.21円で推移した。

財務省が12月24日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、12月上旬の原油輸入平均CIF価格は、59,346円/klで、前旬比156円安、ドル建て82.30ドルで前旬比0.84ドル安、為替レートは1ドル/114.65円。

そのような中で、1月4日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.4円の値下がり、軽油は同0.5円の値下がり、灯油は4円の値下がり(18%ベース)であった。ガソリンは7週連続の値下がり、軽油も7週連続の値下がり、灯油は4週連続の値下がりとなった。この週(12/21～1/3)の原油コストは値上がりしている。次週(1/6～1/12)の大手元売卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、前週比5.0円の値上げとなった模様。

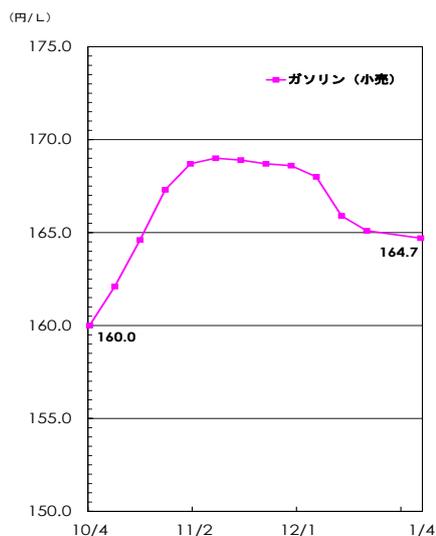
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	12/26 ~ 1/1	3,242 ▼ -127	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	84.2 ▼ -3.3	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	1/1	9,219 ▲ 619	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	1/5	77.20 ▲ 3.81	▲ 27.3
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	1/3	76.08 ▲ 0.51	▲ 28.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	12月上旬	82.30 ▼ -0.84	▲ 37.78
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	59,346 ▼ -156	▲ 30,183
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	114.65 ▼ -0.85	▼ -10.52
	外国為替TTSレート (¥/\$)	1/4	116.44 ▼ -1.02	▼ -12.36



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/26 ~ 1/1	965 ▼ -25 ▲ -		
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.	
	出荷	"	867 ▲ 38 ▲ -		
	輸出	"	81 ▼ -80 ▼ -		
	在庫	1/1	1,611 ▲ 18 ▼ -		
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/21 ~ 1/3	69.4 ▲ 0.7 ▲ 22.6		
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/21 ~ 1/3	64.9 ▲ 1.7 ▲ 20.8	
		(TOCOM/中部)	12/24	69.8 ▲ 2.3 ▲ 24.8	
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/4	164.7 ▼ -0.4 ▲ 28.6		

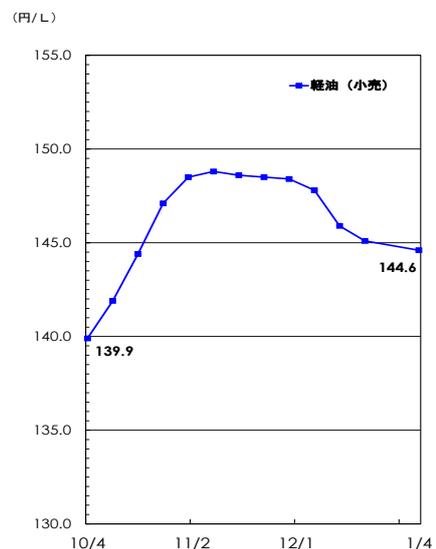
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

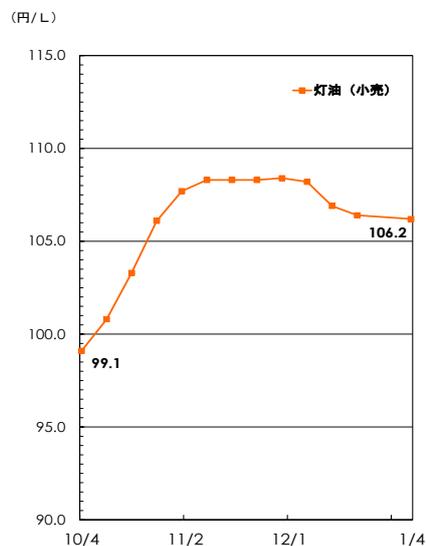
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/26 ~ 1/1	688 ▼ -76 ▲ -		
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.	
	出荷	"	395 ▼ -213 ▲ -		
	輸出	"	247 ▲ 103 ▲ -		
	在庫	1/1	1,430 ▲ 46 ▼ -		
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/21 ~ 1/3	70.4 ▲ 0.2 ▲ 21.1		
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/21 ~ 1/3	71.9 ▼ -0.9 ▲ 21.0	
		(TOCOM/中部)	12/24	- - -	
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/4	144.6 ▼ -0.5 ▲ 28.0		

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/26 ~ 1/1	347 ▲ 16 ▼ -		
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.	
	出荷	"	466 ▼ -25 ▼ -		
	輸出	"	0 → 0 ▼ -		
	在庫	1/1	2,232 ▼ -119 ▼ -		
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/21 ~ 1/3	69.4 → 0.0 ▲ 19.9		
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/21 ~ 1/3	68.9 ▲ 0.8 ▲ 21.5	
		(TOCOM/中部)	12/24	70.7 ▲ 2.2 ▲ 21.2	
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/4	106.2 ▼ -0.2 ▲ 25.7		



■ 関連情報

1 海外/原油

12月29日のNYMEX先物原油は、米原油・石油製品在庫の減少を背景に6営業日続伸し、2月限の終値は、前日比0.58ドル高の76.56ドル。3月限は0.58ドル高の76.18ドルだった。米エネルギー情報局(EIA)が朝方発表した24日までの1週間の米原油在庫は、前週比360万バレル減と、減少幅は市場予想(310万バレル減)を上回った。在庫取り崩しは5週連続。ガソリン在庫も150万バレル減(予想は50万バレル増)、中間留分在庫も170万バレル減(予想は20万バレル増)だった。

また、1月5日のNYMEX先物原油は、米原油在庫の減少を背景に3日続伸し、2月限の終値は、前日比0.86ドル高の77.85ドル。3月限は0.73ドル高の77.47ドルだった。米エネルギー情報局(EIA)が朝方発表した12月31日までの1週間の米原油在庫は、前週比210万バレル減と、減少幅は市場

予想(330万バレル減)を下回ったものの、在庫取り崩しは6週連続となった。一方、ガソリン在庫は1010万バレル増(予想は180万バレル増)、中間留分在庫も440万バレル増(予想は150万バレル増)だった。

EIAによると、12月27日時点のガソリンの小売価格は、前週比2.0セント値下がり1ガロン3.275ドル(99.7円/ℓ)、ディーゼルは同1.1セント値下がり3.615ドル(110.1円/ℓ)となった。ガソリンは7週連続の値下がり、ディーゼルは6週連続の値下がりとなった。また、1月3日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.6セント値上がり1ガロン3.281ドル(100.4円/ℓ)、ディーゼルは同0.2セント値下がり3.613ドル(110.6円/ℓ)となった。ガソリンは8週ぶりの値上がり、ディーゼルは7週連続の値下がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年12月26日～1月1日に休止したトッパー能力は3.5万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。原油処理量は324.2万klと、前週に比べ12.7万kl減少。前年に対しては24.2万klの増加。トッパー稼働率は84.2%と前週に対して3.3ポイントの減少、前年に対しては6.2ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/2.6%減、ジェット/17.3%減、灯油/4.8%増、軽油/9.9%減、A重油/22.0%減、C重油/37.5%減。今週のC重油の輸入は4.1万kl(前週比1.6万kl増)。軽油の輸出は24.7万kl(前週比10.3万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、ジェットが増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェット、灯油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は86.7万kl(対前週4.5%増)と2週振りに増加した。ジェット4.3万kl(対前週58.4%増)、灯油46.6万kl(対前週5.1%減)、軽油39.5万kl

(対前週34.9%減)、A重油16.5万kl(対前週37.3%減)、C重油11.6万kl(対前週55.4%減)。

(単位:千kl)

	今週 (12/26 ~ 1/1)	前週 (12/19 ~ 12/25)	前週比
ガソリン	867	829	▲ 38 (5%)
ジェット燃料	43	27	▲ 16 (59%)
灯油	466	491	▼ -25 (-5%)
軽油	395	608	▼ -213 (-35%)
A重油	165	263	▼ -98 (-37%)
C重油	116	260	▼ -144 (-55%)
合計	2,052	2,478	▼ -426 (-17%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

1月1日時点の在庫は、灯油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェットが増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは161.1万kl、前週差1.8万kl増。前年に対しては33.7万kl少ない。

灯油は223.2万kl、前週差11.9万kl減。前年に対しては13.6万kl少ない。

軽油は143.0万kl、前週差4.6万kl増。前年に対しては28.6万kl少ない。

A重油は76.9万kl、前週差4.4万kl増。前年に対しては0.1万kl少ない。

C重油は182.2万kl、前週差9.2万kl増。前年に対しては13.5万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (1/1)	前週 (12/25)	前週比
ガソリン	1,611	1,593	▲ 18 (1%)
ジェット燃料	901	887	▲ 14 (2%)
灯油	2,232	2,351	▼ -119 (-5%)
軽油	1,430	1,384	▲ 46 (3%)
A重油	769	725	▲ 44 (6%)
C重油	1,822	1,730	▲ 92 (5%)
合計	8,765	8,670	▲ 95 (1.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

12月21～1月3日の指標原油価格は前週比で値上がりし、為替レートも円安で、円建ての原油コストは値上がりしたものと見られる。

次週(1/6～1/12)の大手元売卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、前週比5.0円の値上げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

12月21日～1月3日の製品スポット市況は、12月14日～12月20日平均と比べ、陸上の灯油の横ばいと先物の軽油の値下がりを除いて、他の油種・取引で、値上がりした。

直近週(12/21～1/3)の陸上スポット価格平均値は、前週(12/14～12/20)比で、ガソリンは0.7円の値上がり、灯油は横ばい、軽油は0.2円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(12/21～1/3)に、前週(12/14～12/20)比で、ガソリンは、0.1円の値上がり、灯油は0.1円の値上がり、軽油は0.5円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.7円の値上がり、灯油は0.8円の値上がり、軽油は0.9円の値下がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (12/21～1/3)	前週 (12/14～12/20)	前週比
スポット価格	レギュラー	69.4	68.7	▲ 0.7
	灯油	69.4	69.4	▶ 0.0
	軽油	70.4	70.2	▲ 0.2

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (12/21～1/3)	前週 (12/14～12/20)	前週比
先物価格	レギュラー	64.9	63.2	▲ 1.7
	灯油	68.9	68.1	▲ 0.8
	軽油	71.9	72.8	▼ -0.9

※上記価格は税抜き価格

参考値 (12/21～1/3実績値) (単位: 円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.7	▲ 1.7	▲ 1.2
灯油	▶ 0.0	▲ 0.8	▲ 0.4
軽油	▲ 0.2	▼ -0.9	▼ -0.3
A重油	▲ 0.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

1月4日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円安の164.7円、軽油は同0.5円安の144.6円、灯油は18%ベースで4円安の106.2円(1%ベースでは同0.2円安の106.2円)。ガソリンは7週連続の値下がり、軽油も7週連続の値下がり、灯油は4週連続の値下がりとなった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは9都県で、横ばいは2県、値下がり36道府県であった。全国最安値は埼玉県157.6円、その次は岩手県158.4円であった。他方、最高値は長崎県175.4円だった。最も値上がりしたのは沖縄県(前週比0.6円高)で、横ばいは奈良県と山口県、最も値下がりしたのは鳥取県(同1.7円安)だった。

今週(12/21～1/3)の指標原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、円建ての原油コストは値上がりしたものと見られる。次週(1/6～1/12)適用の大手元売卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、前週比5.0円の値上げとなった模様。

次回調査時(1/11)のガソリンの小売価格は、値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (1/4)	前週 (12/20)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	164.7	165.1	▼ -0.4	08/8/4 185.1
	灯油	106.2	106.4	▼ -0.2	08/8/11 132.1
	軽油	144.6	145.1	▼ -0.5	08/8/4 167.4

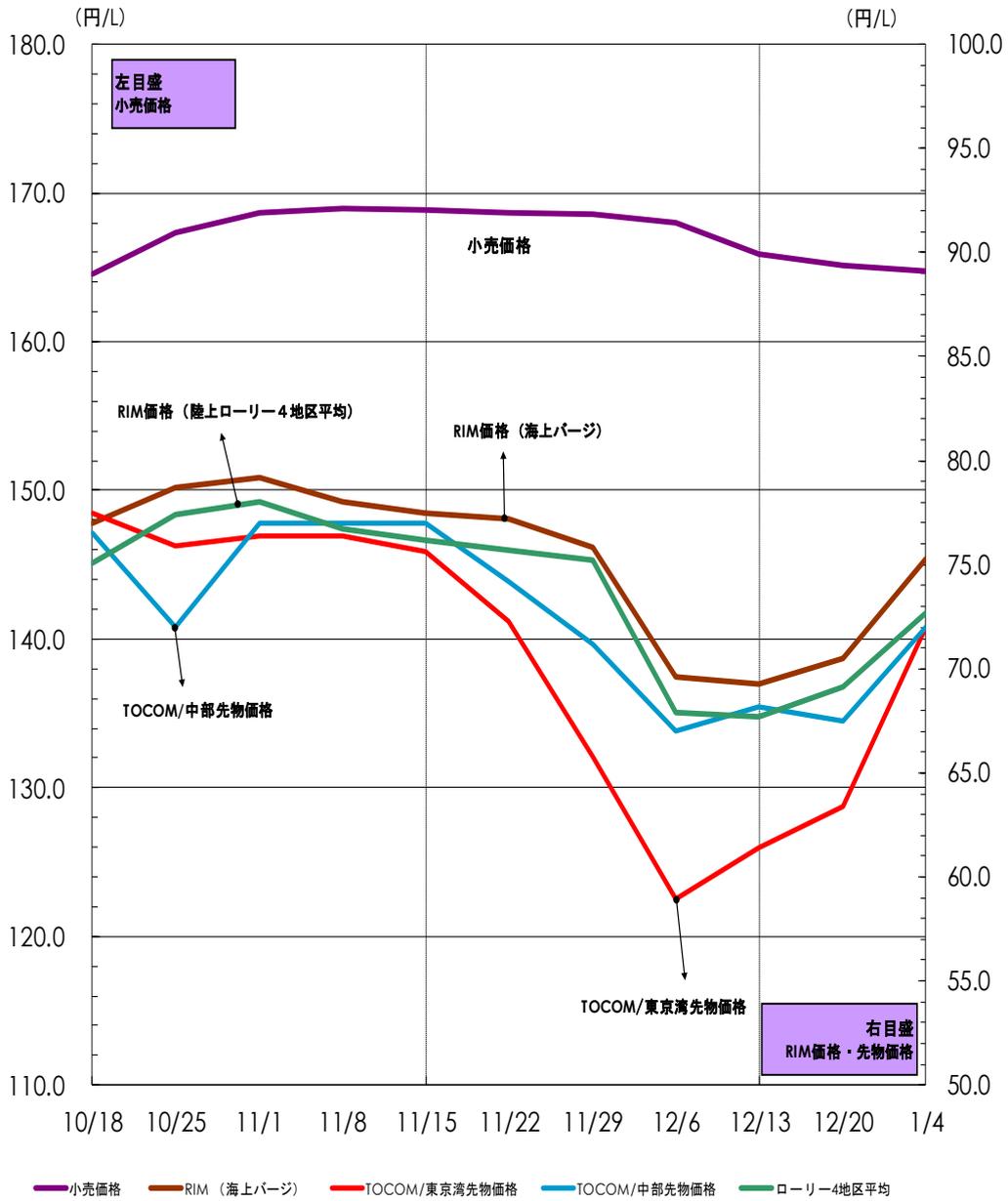
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/10/18 ~ 2022/1/4)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2021第39号) の公表は、1/14 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層 (特に給油所経営に携わる方々) から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所 (The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限 (翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社 (RIM) 「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用 (いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格 (平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格 (平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁-HPIに掲載)。